

教育の情報化と情報教育

急速な情報化の進展

コンピュータや携帯電話などが広く普及するとともに、インターネットの活用が進み、誰もが情報の受け手だけでなく送り手としての役割も担うようになってきています。それにともない、日常生活も大きく変化している中で、大量の情報の中から必要な情報を取捨選択したり、表現活動やコミュニケーションの効果的な手段としてコンピュータや情報通信ネットワークなどを活用したりする能力が求められるようになってきています。

同時に、ネットワーク上の有害情報や悪意のある情報発信など情報化の影の部分への対応が大きな課題となっており、情報手段を適切に活用できる能力が必要とされています。

さらに、情報手段を効果的に活用して、多様な情報を結び付けたり、情報を共有するなどして協同的に作業したりすることで、新たな知識や情報などの創造・発信や問題の解決につなげていくといった、情報社会の進展に主体的に対応できる能力が求められています。

教育の情報化

「教育の情報化」とは、情報化の進展に対応した学習内容や指導形態の改善、学校組織や校務の改善、学校への支援体制づくりなどを通して教育の質の向上を目指すものです。

「情報教育」は、「教育の情報化」に含まれる要素のうちの一つとして捉えられます。

情報教育～児童生徒の情報活用能力の育成

教科指導におけるICT()活用～各教科等の目標を達成するための効果的なICT機器の活用
校務の情報化～教員の事務負担の軽減と児童生徒と向き合う時間の確保

情報教育の目標

「情報教育」は、児童生徒自らが考え、主体的に判断・表現・行動するなど、児童生徒が主体的に学ぶための「情報活用能力」を育てることをねらいとしています。そのねらいは次の3つの観点から整理されていますが、これらの観点は独立したものではなく、相互に関連付けて、バランスよく身に付けさせることが重要です。

A 情報活用の実践力

課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力

B 情報の科学的な理解

情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解と、情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解

C 情報社会に参画する態度

社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度

情報教育では、情報活用能力の育成や情報の科学的な理解を通じて、児童生徒が生涯を通して、社会のさまざまな変化に主体的に対応するための基礎的・基本的な力を身に付けることを目指すとともに、情報モラル等を扱うことによって、情報社会に参画する態度を育てるものであり、このことは、「生きる力」の育成につながります。

「ICT」・・・Information and Communication Technologyの略で、コンピュータや情報通信ネットワーク(インターネット等)などの情報コミュニケーション技術をさす。